

S S T K

社会福祉法人 埼玉のぞみの園

# 法人だより

No.16

定価1部 50円

編集発行 埼玉のぞみの園法人本部 〒369-1105 埼玉県深谷市本田3343 編集責任者 理事長 山崎 勝  
発行 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒332-0011 埼玉県川口市元郷1-10-13



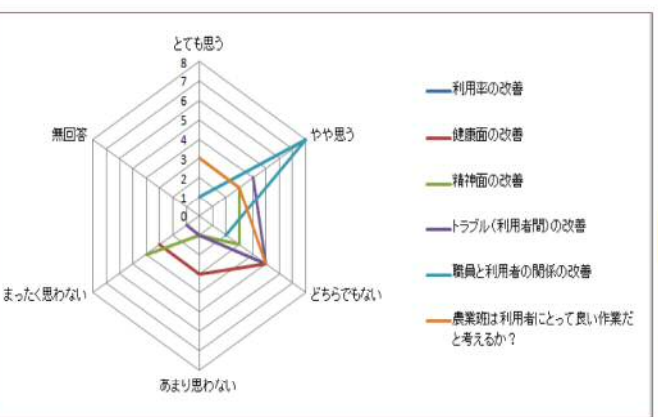
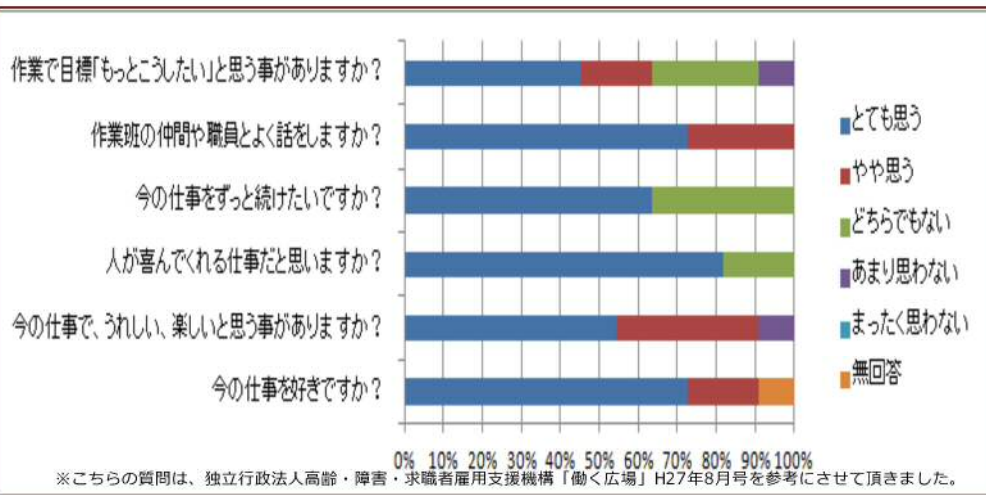
妻沼つくし作業所(熊谷市飯塚) 農作業の様子。

埼玉のぞみの園においても、早くから妻沼つくし作業所・第2春日園において農作業を授産作業として取り入れ、野菜の生産出荷のみならず、ジャムやゼリーに加工して販売するなど、農業と障害の可能性を追求してきました。まだまだ伸

障がい福祉の分野では、農業の持つ癒し効果により『園芸福祉』『園芸療法』『農業就労』が注目されています。



## 農業への挑戦



障がい種別や個人特性もあり農業が適しているとは一概に言いきれないようです。

びしろのある当法人の農業ですが、現状を明らかにするべく、そこに携わる各事業所の利用者および職員にアンケートを取りました。

**農業についてアンケート**  
第2春日園・妻沼つくし作業所の農業班利用者さん11名へ  
お願いしました

次に、担当職員へアンケートを取りました。利用率・健康面・精神面・人間関係等、多方向から質問しました。

「仕事を好きですか？」の質問に対して「とても思う」「やや思う」が9割を占めました。理由として「うれしい、楽しいと思うのはどんな時ですか？」の問いに「お客さんが買いにきてくれた時」「おいしかったと言われた時」「作物の成長が見られる」との意見があり、人が喜ぶ姿を目の当たりにできる事が多くの人にとって喜ばしいこと、働く喜びとなっているようです。また「野菜を育てる」過程に達成感が得られるのでしよう。



飯塚職員の支援風景。春日園にて。(H27.12.17撮影)

春日園では食事や入浴といったADLはまだまだ自立されている方が多いですが、年々高齢化による重度化が課題になっており、これは今後も避けては通れない道であります。今回の実習で体験させていただいたことを今後の支援に大いに役立てたいと思えました。研修者を代表しまして、熊谷様の利用者ならびに職員の皆様、貴重な学びの機会を本当にありがとうございました。

### 平成27年度 中堅職員研修のご報告

熊谷様は、重度の利用者様を対象とした入所施設で、その平均区分は5を超えており、同じ障害者支援施設といっても事業形態が異なる部分が多くありました。

食事にしてもほぼ全員の方が介助を必要としており、利用者様に対し3分の1以上の職員が入っていました。入浴は半数以上の方が特殊浴槽を使用していて、職員皆様のいき届いた介助に、思わず見入ってしまう程でした。また日中活動は一つの場所を集まり、それぞれ創作活動や体を動かすゲーム、カラオケ、パソコンなどを行っていましたが、驚いたのは、利用者様全員がその場所に集まり参加されていたことです。春日園では日中活動の参加率が低さが課題となつていたので、先方の職員さんに尋ねてみたところ、日中活動を始めてから今の形になるまで、約2年以上の歳月を要されたと話されていたのが印象的でした。

「実習中とはとにかく驚きの連続でした...」  
春日園支援員 飯塚竜也

社会福祉法人 江南会 障害者支援施設熊谷様  
http://kounankai-kumagay.a.shafuku.com  
(HPより転用させて頂きました)

### 土地一坪運動 ご協力者様

(順不同・敬称略にて御容赦願います。)  
平成27年10月5日 平成27年11月  
※平成27年11月30日現在

中村貫一  
新施設建設のために大切に使用します。

現在の寄付額  
五、四二九、八四三円  
(平成27年11月30日現在)

### 後援会 ご協力者様

(順不同・敬称略にて御容赦願います。)  
平成27年10月5日 平成27年11月  
※平成27年11月30日現在

田沼久子  
鈴木涼太  
小泉良子  
木村布美子  
株式会社関口商店

心より感謝を申し上げます。

### 助成金をいただきました

平成27年10月5日 平成27年11月

中央競馬馬主社会福祉財団様

対象事業所：深谷たんぼほ  
対象事業：平成27年度施設整備等  
助成金  
助成額：一〇三万円

業務用オープン他機材

今までは家庭用オープンを使用しておりましたが、この度の助成により購入が叶いました。作業効率が上がり大変感謝しております。どうもありがとうございました。

お悔やみ  
榎本千二様が逝去されました。  
(春日園 第四代園長)  
自由で闊達な精神の気骨あふれる方で、ご冥福をお祈り申し上げます。





**人気のジャム3種です♪**  
 (左から)  
**ハuckleベリージャム**  
**ピーナツバターかぼちゃジャム**  
**トマトジャム** 各350円  
**トマトケチャップ** 400円  
 はる工房にて販売中♪

頂きながら挑戦しています。苗の定着から芽摘み、トマトトーン付けや葉掻き作業を利用者が慣れた手つきで行っています。10月、12月はあまり作業はありませんが1月からは収穫が始まるので利用者も4、5名入り大忙しです。選別・袋詰め・納品の手伝いを主にしています。片麻痺の方も自分のやり易い方法で知的障害の方と組んで作業を行っています。作業の段取りも利用者同士で決めて行う事もあります。



トマトトーン付けの様子  
 まもなく本物の蜂による受粉も始まります。

今年度はトマトに特化した商品開発に取り組みました。トマトジャムは3年前から製造販売しています。販売先で購入した方より「美味しかったから送ってもらえますか」と何度か連絡を頂きましてとてもありがたかったです。11月よりトマトケチャップを製造販売始めました。トマトの工房を魅力ある店にしていきたいです。



最後に利用者へ「仕事へのやりがい」を知る為に「作業に対する目標、もつとこうしたいと思う事がありますか？」と聞いたのですが、約6割の方が「とても思う」「やや思う」とあり、目標を各自持って作業に取り組んでいる様子が見えました。

精神面の改善・トラブルの改善等については個人差もあり「かなり良くなった」とまではいかないのですが、「利用者」と職員との関係改善「農業班は利用者にとって良い作業だと思おうか」については「やや思う」が多く、その理由として『屋外作業による解放感が精神的に落ち着ける』や『育てる行為への責任感・達成感の育成』『地域交流』が上がっています。反面、暑さ寒さが厳しく体調管理が重要、身体障害の方には向かない...といった特性にあった作業提供が必要です。

理事山崎の言葉によく「人は仕事でのみ成長する」とありまして、今後農業班のみならず作業（仕事）を通して、利用者自身が成長を実感できる授産事業法人でありたいと思っております。最後に、ケートへの協力もありがとうございます。とうございませう。（齊藤）



妻沼つくし作業所  
 施設長 鎌田仁孝

**妻沼つくし作業所 農業紹介**

にも同様に農業のノウハウを教えて頂きました。平成23年、作業所の移転に伴い、移転先の農家さんからも田畑の使用依頼を賜りまして、作業所から徒歩で通える範囲をお借りできるようになりました。

利用者にとって果たして農業が適しているかどうかは分かりませんが、少なくとも嫌な方は全くないという事は毎日支援する中で感じる事です。真夏の暑い日や冬の寒空でも、積極的に畑へ向かい、終始笑顔が絶えないくらいです。また、落ち着きがない方と一緒に畑に行くとても良い表情になり、作業所に戻っても効率よく室内作業に就くことができます。

8年余りの取り組みで、利用者には管理機（耕運機）を扱えるようになり、野菜と雑草の違いなども理解出来るようになりました。今後は、地域の方々と共に直売所でも運営できればと願いもおりまぜ考えております。



野菜の無人販売所  
 施設にて新鮮野菜を販売しています！ぜひお越しください。



トマトハウスでの収穫も5回目となりました。年々収穫量も増え、今では病気や害虫の予防策がしっかりと出ています。近隣の農業の普及に相談したり、教えて

**第2春日園 農業紹介**  
 課長補佐 松葉正枝

「はる工房」も開店して5年目となりました。うどんとパンのお店として力を入れて参りました。なかなか売上げが上がりずメニューの改正、新メニューや季節メニューを取り入れて現在に至っています。お店の雰囲気も明るく、お客さまがゆったりと過ごせる店内になる様に努めています。この先店舗におみやげコーナーを設けて法人傘下施設の商品をはじめ近隣施設の商品も販売する予定です。調理パンと焼きたての菓子パン、焼き菓子を店舗に並べてドリップコーヒーで一休み出来るようになっております。「はる工房へ来れば食べられる」「買える」物を今後商品開発中。オープンキッチンでは利用者が1名入って食器洗浄、盛り付けなどの手伝いをしています。「いらつしゃいませ」「ありがとうございます」の明るい声が行きかう店内でありたいと思っております。

今秋TTPPの大筋合意がなされ、日本の農業にとつては大転換期を迎える事となる旨報道されています。一方でかなり昔から日本の農業については三ちゃん農業と言われた頃から、農業従事者の継承問題や高齢化など言われており、今や休耕地は全国各所に急激に広がり続けています。

福祉の世界では早くから農業を作業の一環として取り入れているところが多くあります。しかしその大方は手軽に資金なしで出来るか、自分の施設で消費するものを作るといった程度で、自給自足的な農業が大半であったと思います。

一所懸命という言葉にあるように、土地に縛られる習性みたいなものもあるのかもしれませんが、かつて春日園でグナム旅行に行ったとき、グナムには農業生産者はおらず、全て米国本土からの空輸で賄っているという記憶があります。前述のTTPPも踏まえ農業の効率化を高めなければ結局日本の農業は衰退してしまう恐れがあります。近年は土地をほぼ無償で貸し出していた農家の方も多く、福祉の分野では新たに農業及び農産物の加工などに参入して行く施設も多く、全国的に米を始めとした野菜類や果物、また加工品では豆腐やジュースから餃子・カレーまでいろんなものを作っており、スーパーの食品売り場も埋まってしまうのではないかと



山崎理事長

しかし、もしかしたら日本の農業を救うのは障害者施設？と言うプラス思考で上手いケチャップを食べ

深谷たんぼぼでは選果センターへ利用者を派遣し胡瓜の選別作業を大分前から行っています。恐らくJAにとって無くてはならない戦力となっているはず。第2春日園ではトマトを使ったジャムを作ってきましたが、今年から加工科としてトマトケチャップやソースさらにかぼちゃプリンなどを試作し、販売へと繋げていけたらと願っています。

木は枝を季節ごとに段々と広げていきます。農業も生産から加工まで考えて行くと、いろんな夢が次々と広がっていくのではないかと思います。今、先にあることを考えることはとても面白い事です。これら法人の仕事として纏められたら更にいいのと思う昨今であります。農産物を作る施設、加工する施設、販売する施設などそれぞれ得意分野を生かした住み分けが法人内で出来たらまた面白いと思います。

**農業におもうこと**

社会福祉法人埼玉のぞの園 理事長 山崎 勝